

# 水害と向き合う



近年大型化しつつある台風は、排水管から逆流した汚水で住宅地が浸水するなど、私たちの生活に大きな影響を与えています。また、昨年はさいたま市内でも芝川が氾濫したとおり、水害はごく身近なところで発生しているといえます。

豪雨が発生する原因やとるべき浸水対策について、また被災状況を克明に捉えた写真集やルポなど、水害を正しく知り備えるために役立つ資料を集めました。

## 都市型集中豪雨はなぜ起こる？

—台風でも前線でもない大雨の正体—

三上岳彦／著 技術評論社 2008年

台風や前線によらない都市型集中豪雨は発生の予測が難しく、近年は「ゲリラ豪雨」とも呼ばれます。本書は、豪雨発生に至った当時の状況が丁寧に解説されており、専門的な知識がなくても理解しながら読み進められます。

ヒートアイランドのメカニズムなど耳馴染みのある事例から、都市型豪雨について知ろうとすることこそが水害を防ぐための第一歩であることを実感できます。

## 地名でわかる水害大国・日本

楠原佑介／[著] 祥伝社 2016年

水害が日常茶飯事であったわが国では、災害の痕跡が地名として記録されているとして、危ない場所を例示しています。また、水害は予見できるとして今後の土地利用やインフラ整備のあり方についても、具体的な提唱をしています。

線状降水帯の停滞による集中豪雨が発生した2015年の鬼怒川水害などから、水害と地名との関係性にきっと驚くのではないのでしょうか。地名からその土地の変遷を知り、水害発生時の被害軽減のための手がかりを得たいものです。

## 大水害「安全対策」完全ガイドブック

—一家に1冊—2020年保存版

別冊宝島編集部／編 宝島社 2019年

防災コンサルタントによる台風水害の危機管理方法をはじめ、食品備蓄や本当に役に立つ防災グッズ16選、また水害で家や家財が被害に遭った場合のお金の悩みについてなど、災害時に生きていくために不可欠な情報を得られます。

水害対策の必要性は認識していても、どのように行うべきか分からない方も多いためです。そんな方は、まず本書を手にとってみてはいかがでしょうか。

# 2019・10 台風 19 号長野県災害の記録—緊急報道写真集—

信濃毎日新聞社編集局／編 信濃毎日新聞社 2019 年

昨年10月に長野県へ接近した台風19号(令和元年東日本台風)は、車両基地の新幹線車両の浸水や鉄橋の川への崩落など交通網の破壊を発生させ、また当時の私たちはそれらの映像を通して被害の甚大さを察し、大きく心を痛めました。

本写真集は他にも、関係者が長野県内各地の被災現場を奔走する場面や近隣住民に救助され安堵する住民の姿、避難所に避難してきた人々や活躍するボランティア、そして復旧へ向けて歩み始めた街の様子などを捉えており、皆が助け合い懸命に生きようとしていた証を後世に語り継ぐための貴重な資料です。

戦後わが国で発生した水害の詳細は、他にも以下の資料で知ることができます。

書名	著者名	出版社	出版年
カスリーン台風—昭和 22 年関東水没から 50 年 報道写真集—	茨城新聞社／ [ほか]共同編集	埼玉新聞社出版局(発売)	1997
伊勢湾台風—水害前線の村—	岡邦行／著	ゆいぽおと	2009
ドキュメント豪雨災害—そのとき人は何を見るか—	稲泉連／著	岩波書店	2014
ドキュメント豪雨災害—西日本豪雨の被災地を訪ねて—	谷山宏典／著	山と溪谷社	2019

## さいたま市浸水(内水)防災マップ 各区版

さいたま市 2016 年

さいたま市では浸水(内水)防災マップを区ごとに作成しています(計 10 種類)。各区版とも地図面には想定される浸水の深さや、指定緊急避難場所と指定避難所の一覧を掲載しています。また、情報面には降雨時の行動の目安を具体的に示すとともに、水害に強いまちづくりのための備えについて紹介されています。

他にも、自宅や職場の最寄りの避難所などをあらかじめ確認できるように洪水ハザードマップ(荒川・入間川版、利根川・江戸川版など)を作成しています。いざという時の行動を皆様で話し合ってください。

- さいたま市浸水(内水)防災マップおよび洪水ハザードマップは、以下のさいたま市ホームページからご覧いただくことも可能です。

<https://www.city.saitama.jp/001/011/015/002/003/index.html>

編集・発行 さいたま市立与野図書館

〒338-0002 さいたま市中央区下落合 5 丁目 11 番 11 号

TEL 048-853-7816 FAX 048-857-1946 (2020 年 10 月発行)